

プロトタイプ

キャンパス・ツールボックス

―学生主導による地域課題解決の手法と実践事例―

概要説明資料

https://campus.gov-toolbox.jp

2026年9月

立命館アジア太平洋大学（APU） ／ 一般社団法人行政情報システム研究所　狩野英司

本サイト開発の背景と目的

地域課題の解決に取り組む学生プロジェクトの成果と知見を、次の学生と他の地域に引き継ぐ

背景	地域課題の解決において、学生が自らのイニシアチブでプロジェクトを推進するとき、行政職員や大学教員の想像を超えた成果が生まれることがある
機能	学生主導型の地域課題解決プロジェクトの実践手法と経験を形式知として記録し、一つのサイトに集めて共有する
成果	共有されたナレッジが、次の学生の、そして他の地域の活動を加速する

課題認識

地域課題解決プロジェクトの知見が言語化されない
活動は報告や発表で終わり、手法も失敗も記録に残らない

地域課題解決プロジェクトの知見が分散している
大学・自治体・団体ごとに埋もれており、探して利用することが難しい

知見が共有され、引き継がれにくい

キャンパス・ツールボックスの全体像

学生主導型の地域課題解決プロジェクトの「手法と実践事例」を、無料*で利用できるサイト

ケーススタディ	実践ガイド	その後の展開
学生プロジェクトの取組の記録。失敗や軌道修正も含めて、その経緯と成果を紹介する	課題解決の手法やツールを、ガイダンスとワークシートとともに、そのまま使える形で提供する	プロジェクトがその後どんな成果につながったかを紹介

掲載するプロジェクト	学生の発案で始まり、行政の応援のもとで現実の成果を挙げた、他の地域でも再現可能なプロジェクト（後述）

公的機関向けに行政の業務・サービス変革のフレームワークと実践事例を収集・公開する「課題解決ツールボックス」（Gov-ToolBox）の枠組みを援用した姉妹サイト

* 教育機関・公的機関の関係者は無償で利用可能（商業利用は許諾が必要）

掲載するのは学生主導型（SCALE）プロジェクト

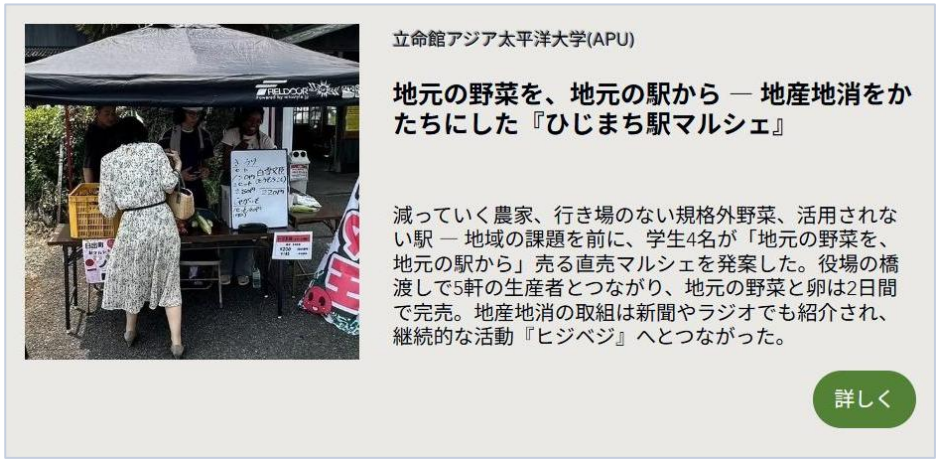
学生自らが発案し、行政の応援のもとで成果を挙げ、他の地域でも再現できるプロジェクト

学生主導型（SCALE）プロジェクト	**学生発案** Student-driven	**ゼロスタート** Cost-light	**行政が応援** Authority-backed	**現実の成果** Local impact	**横展開可能** Expandable
成果の生み出し方	課題の特定 **先行事例と行政のブリーフィングを踏まえ、テーマは学生が決める**		推進 **必要十分なプロジェクト管理を前提に、現地で動く時間を確保**	共有と継続 **成果と失敗を形式知化するとともに、活動を続ける学生をサポート**	
学生の強み	デジタル活用力	失敗力	発想力	行動力	巻き込み力

主なコンテンツ:ケーススタディと実践ガイド

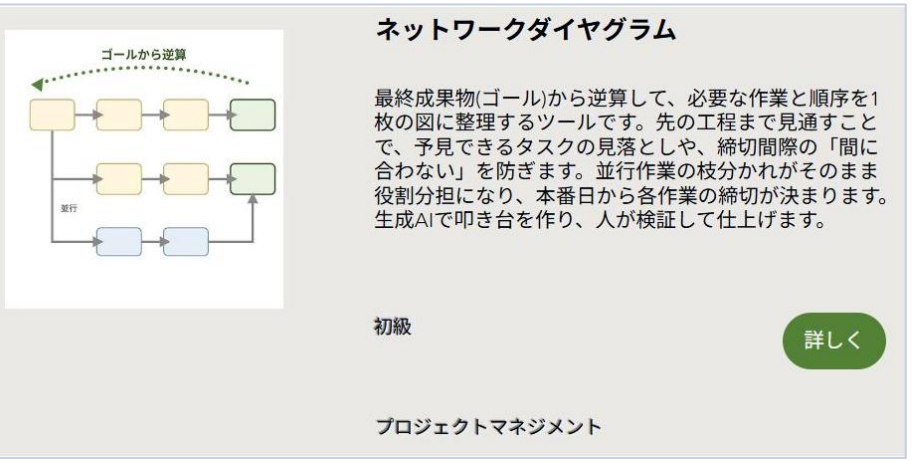
地域課題解決の進め方の手法(実践ガイド)と事例(ケーススタディ)をセットで用意

ケーススタディ



相互に参照

実践ガイド



学生向けに
特別な予算や制度がなくても、自分のアイデアから始める方法を伝える

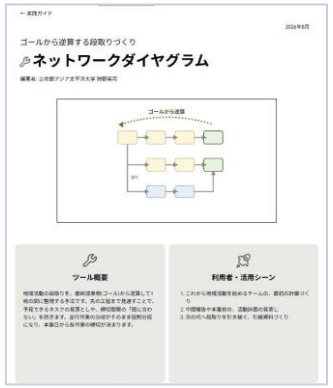
大学教員向けに
学生自らが課題を見つけ、現場で解決する授業スタイルを、一つの選択肢として提示する

自治体職員向けに
学生の発想と行動力を、地域課題解決の新たな熱源とするため、応援と協働のアプローチを紹介する

実践ガイド：必要な道具をフルセットで提供

課題解決を実践するための思考の型（フレームワーク）やツール活用のHow toをフルセットで提供

概要情報



ガイダンス



ワークシート



概要情報でツールを理解し、ガイダンスに示す進め方に従って、
ワークシートで実際のワークを進めていく

公開済みコンテンツ（2026年9月現在）

企画段階
- ペルソナ＋パッケージデザイン
- 原因分析ロジックツリー
- ジャーニーマップ基本編

計画段階
- プロジェクト憲章の作成（仮）
- インセプションデッキ（仮）
- ネットワークダイヤグラム

実行段階
- カンバンボード
- 会議録の簡易AI自動生成
- 「ふりかえり」法（仮）

ケーススタディ：成功談ではなく、How toがわかる記録

失敗や軌道修正も含めて記録し、どのように進め、何を実現したかがわかる



立命館アジア太平洋大学(APU)　プロジェクト期間: 2025年4月〜7月

地元の野菜を、地元の駅から ― 地産地消をかたちにした『ひじまち駅マルシェ』

編著者: キャンパス・ツールボックス編集部＋ヒジベジ

減っていく農家、行き場のない規格外野菜、活用されない駅 ― 地域の課題を前に、学生4名が「地元の野菜を、地元の駅から」売る直売マルシェを発案した。役場の橋渡しで5軒の生産者とつながり、地元の野菜と卵は2日間で完売。地産地消の取組は新聞やラジオでも紹介され、継続的な活動「ヒジベジ」へとつながった。

タグ: 地域産業・農業　大分県日出町　官学連携

背景・課題

・日出町では少子高齢化を背景に後継者不足・人手不足が進んで農家が減少し、特産品のPR不足も課題となっていた。畑では、本来食べられるのに出荷されない規格外品も生まれていた
・JR豊後豊岡駅の併設スペースが、活用されないままになっていた…

↓もっと読む

課題解決アプローチ

・使われていない駅の併設スペースを直売の場に変え、地元の野菜を地元で販売する地産地消のマルシェを企画した
・日出町役場(農林課)の橋渡しで地域の生産者5軒とつながり、産官学(農家・JR九州・役場・大学)の連携体制を築いた…

↓もっと読む

生み出した成果

・地元の野菜と卵は2日間・3会場で完売。当日は55名の方が来場・購入した
・売上45,390円・利益28,790円は、農家への御礼の品と今後の活動費に活用
・新聞1件・Web新聞1件・OBSラジオ2件で紹介された…

↓もっと読む

失敗も軌道修正も記録する

成果だけでなく、うまくいかなかった理由や経緯と、立て直しの過程も残す

How toがわかる

「後輩へのアドバイス」「再利用できるナレッジ」として整理

手法と成果物も紹介

使用した実践ガイドや、プロジェクトの実際の成果物（アプリ・サイト等）を紹介

英語版も公開

海外の学生も参照できる。プロジェクトには海外の学生も参画している

ケーススタディ一覧（2026年9月現在）

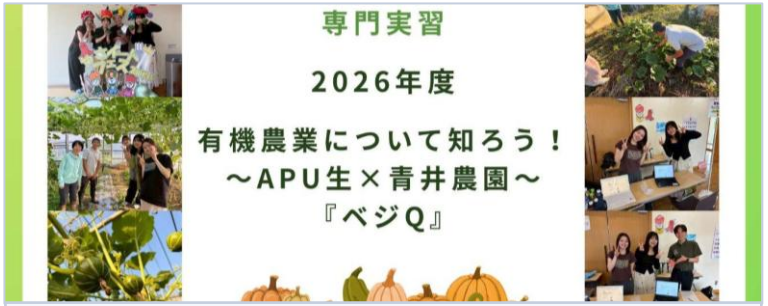
学生発案・ゼロスタートから、現実の成果へ ― 掲載事例は順次拡充



ヒジベジ
地元野菜を、地元の駅で売る



英語GO!
遊びで越える、ことばの壁



ベジQ
有機農業クイズアプリ



バーチャル日出町
城下町を、仮想空間へ



高校見学ツアー in 日出総
アニメで見た”日常”の教室へ



Hiji's short movie
ショート動画で、観光サイトへ

今後の展望

コンテンツを実践に使い、実践の結果をコンテンツに還元する循環を広げ、続ける学生を支える

コンテンツ

ケーススタディと実践ガイドを、大学・地域を問わず収集・拡充する

→

プロジェクトでの実践

授業・ゼミ・サークルなどで、コンテンツを活用してプロジェクトを実践する

→

実践結果の還元

実践の結果を新たなケーススタディに。実践ガイドも改善する

実践結果を、次のコンテンツへ

続けるためのサポート

プロジェクト終了後も活動を続ける学生をサポートし、その後の展開も記録する

別紙：コンテンツの元となった事例

立命館アジア太平洋大学（APU）×日出町 官学共創型DX事業

授業科目「専門実習」における実践

事業の概要：APU×日出町 官学共創型DX事業

2023年度から続くAPUと日出町の官学共創事業。学生主導の課題解決を授業で毎学期実施

実施主体	立命館アジア太平洋大学（APU）サステイナビリティ観光学部 × 大分県日出町
授業	専門実習（PBL科目。春＝日本語、秋＝英語開講）。 受講者20～30名、5名以内のグループワーク。担当教員：狩野英司
進め方	テーマ選定・チーム編成は学生主導。教室の授業と現地活動（最低4回）を組み合わせる
DX	DXは手段。学生が自力でデジタル技術を活用する場合に、必要に応じてサポートする

コンセプト ― 従来の授業とは何が違うのか

「答えを与えない、指示しない、教室に閉じない」授業で、学生が自ら課題を見つけ、やり抜く

従来の授業	専門実習のコンセプト	具体的には
講義で知識を学ぶ	**知識より行動**	知識や道具は提供するが答えは与えず、現場で動くことを重視
キャンパスで完結する	**大学より現場**	現地活動を中心に。日出町の現場で学ぶ
教員がテーマと手順を指示する	**指導より自律**	テーマもチーム編成も学生が決める。教員は交通整理役
失敗しないよう管理する	**安全より挑戦**	失敗を受け止め、前向きに捉える。挫折も教育

授業の運営方法…学生の自律的な活動をファシリテートする

自走できるチームには邪魔をせず、自走が難しいチームには方向付けと伴走を行う

授業での実践

課題の特定
先行活動研究と役場のブリーフィングを踏まえ、学生が自らテーマを決める

活動の推進
必要十分なプロジェクト管理、最低4回の現地活動、活動報告と貢献度評価

成果と経験の共有
最終報告会と引継資料の作成を課し、次のプロジェクトに知見を引き継ぐ

プロジェクトの支援

想像を超える成果を生み出すグループ（介入不要）	活動は続くが、徐々に失速するグループ（伴走支援必要）	機能不全に陥るグループ（直接介入必要）
見守り、求めがあれば手伝う	方向付けと助言で間接的に支援	直接介入し、着地を図る

教員による支援

授業の運営方法…プロジェクト型学習（PBL）による授業設計

何に取り組むかは指示せず、進め方のナレッジを共有し、プロジェクト共通のマイルストーンを定める

図：活動フェーズ別の活動内容・完了条件・マイルストーン（2026年春学期の例）

全グループ共通

	4月	5月	6月	7月
活動フェーズ	テーマ及びチームの決定	企画・計画・準備	現地活動	成果とりまとめ
活動内容	• 日出町の現状理解及び過去の活動実績等を踏まえ、活動テーマとチームを学生主導で決定（教員は交通整理）	• 企画・準備・関係者との調整・事前調査を通じて活動計画を作成（手順は教員が指示） • 現地活動も着手	• 現地活動を展開 • 同時に成果とりまとめも進める • 授業は進捗・課題管理、問題解決中心に移行	• 活動成果をとりまとめ、日出町にプレゼン • 後輩への引継資料（＝期末レポート）を作成
完了条件	1. キックオフMTG資料の作成 2. 議事録の作成	1. 活動計画の作成 2. 現地事前調査報告（1回以上）	1. プレゼン資料ドラフトの作成 2. 現地活動報告（1回以上）	1. プレゼン資料の作成 2. 期末レポート（引継資料）の作成
マイルストーン	キックオフミーティング（4/22@日出町）	中間報告（6/3）	リハーサル（7月初旬）	最終プレゼンテーション（7/15@日出町）

行政と大学を巻き込んだ地域課題解決の仕組みづくり

行政と大学の連携で、社会課題解決のナレッジマネジメントを仕組み化

- **行政**：課題解決フレームワークの形式知化（総務省と連携）
- **大学**：学術論文としての理論化



課題解決のフレームワークと実践例を収集し、体系的に公開

APU研究シーズ



- **行政**：実習型の職員研修（総務省や都道府県の職員研修所）
- **大学**：実習・ワークショップ前提の授業

日出町と連携

- **行政**：課題解決フレームワークの実践（国の出先機関・自治体）
- **大学**：専門実習

本取り組み

これまでの活動テーマ

■日本語開講

- 2026年度春
  - VRでの「バーチャル日出町」の構築
  - 農業ゲームの開発・イベントでの提供
  - APU国際生＋高校生共同の観光ツアー
  - 焼酎二階堂のおいしい飲み方の紹介
  - 魅力発信のためのショートムービー制作
- 2025年度春
  - 地元野菜の「日出町駅マルシェ」開催
  - 「回天」関連デジタルアーカイブの構築
  - バイクシェアリングビジネスの提案
  - PR動画制作：駅周辺の寺社仏閣＋サンリオ
- 2024年度春
  - 日出町への移住拠点づくり
  - 公共交通の課題の解決と政策提案
  - APU生向けPR動画制作
- 2023年度春
  - 別府市観光との連携可能性調査

■英語開講

- 2025年度秋
  - 放課後児童クラブでの英語学習
  - APU生向け徒歩ツアーの実施
  - 公園利用者の環境意識調査
  - 外国人観光客向けPR動画制作：日出町の郷土料理と地元野菜の魅力発信
- 2024年度秋
  - APU生向けバスツアーの実施
  - 外国人観光客向けPR動画制作
- 2023年度秋
  - 日出町の伸びしろの探索・分析

新聞
ラジオ
テレビ







キャンパス・ツールボックス

―学生主導による地域課題解決の手法と実践事例―

https://campus.gov-toolbox.jp

運営主体：一般社団法人行政情報システム研究所　　共同研究：立命館アジア太平洋大学（APU）
本資料の内容は2026年9月現在のものです

作成：有限会社D’s Link